

レジメン名

R-GCD

出典

Leuk Lymphoma.2010;51:1523-1529

依頼元

内科

申請医師

郭 永梅

診療科部長

守屋 慶一

実施部署区分

☒入院☐外来☐処置

対象疾患

B細胞性非ホジキンリンパ腫

☒進行・再発☐補助療法(術前・術後)☐初発☐

投与減量の基準

その他			

投与中止の基準

ANC	1500/mm ³ 未満	PLT T-bil	10万/mm ³ 未満 1.8mg/dL以上
その他			

1クール期間 21日

総クール数 6クール

(次のクールまでの標準期間)

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度 (時間)	投与日(d1、d8等)
リツキシマブ	375mg/m ²	輸液 1-4mg/mLに 希釈	初回は 50mg/hr から漸増 ^{※1}	d1
※1 初回リツキシマブの投与速度は50mg/hrで開始し、問題なければ30分毎に50mg/hrずつ上げて、400mg/hrまで上げることができる。 2回目以降、速度を選択することができる。 ①初回投与時に副作用が軽微であった場合、2回目以降は100mg/hrで開始し、30分毎に100mg/hrずつ上げて、400mg/hrまで上げることができる。 ②臨床的に重篤な心疾患がなく、初回投与時に副作用が軽微であり、かつ投与前の末梢血リンパ球数が5,000/mm ³ 未満である場合、90分間で投与(最初の30分で投与量の20%を投与し、その後60分で投与量の80%を投与)することができる。				
ゲムシタビン	1000mg/m ²	5%糖液100mL	30分	day1、8
カルボプラチン	AUC5 × (GFR+25)	5%TZ250mL	1-2時間	day1
デカドロン	40mg/body	経口		day1-4

1日投与順 (経時的にプレメディケーション・ポストメディケーション、 溶解液まで含む)
day1 ①アセリオ(1000)500mg＋ボララミン5mg(15-30min) ②リツキシマブ375mg/m ² ＋生食適量(50mg/hrから漸増 ^{※1}) ③生食50mL(フラッシュ用) ④グラニセロン3mgバッグ(30分) ⑤ゲムシタビン1000mg/m ² ＋5%糖液100mL(30分) ⑥カルボプラチン＋5%糖液250mL(1-2時間) ⑦生食50mL(フラッシュ用)
day8 ①グラニセロン3mgバッグ(30分) ②ゲムシタビン1000mg/m ² ＋5%糖液100mL(30分) ③生食50mL(フラッシュ用)
day1-4 デカドロン40mg内服
day1-3 アプレピタント内服(125-80-80)